

令和7年度第1回釜石市立図書館協議会の開催結果

- 1 **開催日時** 令和7年6月27日（金）午後2時から午後3時35分まで
- 2 **場 所** 釜石市立図書館 2階 視聴覚室
- 3 **出席委員** 8人
野田摩理子委員、藤原由香里委員、柴田渥委員、万城目千佳代委員、村上修委員、市川淳子委員、鈴木崇委員、千田雅恵委員
- 4 **欠席委員** 細田多聞委員
- 5 **事務局** 3人
佐藤貴之まちづくり課長（※途中退席）
遠野英希図書館長、浜川希望館長補佐
- 6 **傍聴者** なし
- 7 **経過と結果**
(囑状交付式)

開会の前に、図書館協議会委員の委嘱状交付式を行った。

1. 開会

館長が開会宣言し、委員8人が出席し、当協議会運営規則第4条第2項の規定により本会議が成立していることを報告した。

2. 市民生活部長挨拶（※佐藤まちづくり課長挨拶）

佐々木市民生活部長が別用務で欠席のため、代理として、佐藤まちづくり課長が挨拶を行った。

【内容】

皆さん、こんにちは。佐々木部長が東京出張のため私の方から挨拶となります。図書館につきましては、いつも委員の皆様のご協力に大変感謝しております。図書館も大変頑張っております、議会でも話が出たり、庁内でも努力していることが数値的に見えて大変評価が高くなっております。これも委員の皆様のおかげと励みと優しいお言葉があってこそだと思っております。

今年度から「本のまちプロジェクト」を7月1日からスタートします。7月1日号の広報かまいしにもその記事が掲載されます。まずは、図書館と協力しながら、各地区生活応援センターと医師会や薬剤師会などの様々な団体と、本を手にとって貰うことの良い考えについて協議をさせて頂いているところです。皆様のご協力をお願いいたします。

また、まちづくり課では、明日から立正大学デリバリーカレッジを3回開催します。おかげさまで。1回目のテーマ「紀州ドンファン殺人事件無罪判決について」はネーミングが良かったのか、お声がけしなくても30名の定員のところに既に28名が参加しております。2回目のテーマも宮崎駿監督『崖の上のポニョ』や押井守監督『スカイ・クロラ』について、子どもたちがどのように将来に向かっていくのか、という内容です。これも現在28名の参加を頂いております。3回目は「スポーツを通じた地域・ヒトづくり」という内容です。是非、興味がありましたらご参加ください。いつもありがとうございます。

3. 職員紹介

館長が図書館職員と本日欠席した協議会委員の紹介を行った。

4. 委員長及び副委員長互選

委員長、副委員長互選の結果、委員長に藤原由香里委員、副委員長に市川淳子委員が選任された。

5. 委員長挨拶

藤原委員長から挨拶があった。

【内容】

委員長に選出された藤原です。図書館事業の中で「朗読奉仕ハマナスの会」で活動しております。よろしくお願いいたします。

6. 議事

(1) 令和7年度釜石市立図書館運営方針と事業計画について

【説明】

事務局から「資料 No.1」「資料 No.2」を説明し、意見等を求めた。

【質疑・意見等】

(委員) 自分が関わっている講座以外にも盛りだくさんの事業を行っていることが分かりました。

【結果】

質疑応答の上、議事(1)は承認された。

(2) 令和6年度釜石市立図書館蔵書数等の報告について

【説明】

事務局から「資料 No.3」「資料 No.4」「資料 No.5」を説明し、意見等を求めた。

【質疑・意見等】

(委員) 資料 No.3 において、市民文庫の令和5年度の数値が多いのは何故か。

(館長) 令和5年度末時点の数値ということで、累計であるためです。

(委員) たくさんの事業を行っていることに感心します。そこで広報かまいしにこのような事業計画などを掲載することは難しいでしょうか。また、子どもたちや高齢者、中学生に出している3種類の館報について、来館している人だけに渡しているのでしょうか。

(館長) お答えいたします。まず1点目の図書館の事業計画を広報かまいしに事掲載する件についてですが、結論から言えばちょっと難しいと考えています。広報担当課からもスペースの問題があって厳しいと伺っています。ただ、先ほど、課長も申し上げましたが、「本のまちプロジェクト」として、毎月、広報かまいしに取り組みを掲載していく予定にしていますので、図書館の情報や取り組みなどを少しずつ掲載していくことは可能だと考えます。そのほか、

ホームページやスマホなどで、図書館の活動・取り組み・イベント・事業結果・お知らせなどの情報を提供するよう心掛けていきたいと思ひます。

2点目ですが、資料No.5の13ページにあります「図書館の館報の発行」についての件でございます。先ほどは若干説明を割愛してしまひ大変申し訳ございませんでした。「ふれあい通信」につきましては、全小学生の分を印刷して各小学校に送っております。「もっとふれあい通信」は中学生以上が対象となりますが、こちらは各市区生活応援センターに置いてあります。図書館内にも置いてあります。こちらは皆さんにお持ち帰り頂くものです。「ホンホン通信」につきましては中学生対象となり、全中学生分を印刷して各中学校に送っております。3つとも図書館内に置いてあります。

(委員) 例へば、図書館でいろいろ展示物をチェンジしてありますが、図書館に本を借りに来ない限り分からないというのが一般的な気持ちです。何か情報を発信できるものが無いのかなと思ひてあります。結構、展示物については興味をそそられると思ひます。正直、高齢者はスマホで知るといふことはなかなか難しいです。毎回でなくてもいいので、広報かまいしに少しでも掲載して頂ければ有難いのですが。

(委員) 公民館だよりなどに掲載することはできなのでしょうか。広報に折り込みで入ってくるものです。もっと皆さんに見てもらいたい。

(館長) 情報提供する媒体としては、インターネットだと人が限られるので、やはり紙の媒体が良いのだと思ひます。広報かまいしが厳しいのであれば、公民館だよりに掲載するとか、図書館でも他の違つたやり方を検討したいと思ひます。今まで図書館に来たことが無い人をどう呼び込むかが課題の1つであると考えてあります。

(委員) 私もかつて、郷土資料館で働いていました。企画展で苦労しました。たくさん準備を行うのですが、がなかなか人は来ない。やはり、広報かまいしは絶大な効果があるのだと思ひます。せつかく苦労して企画・展示を行っているのに勿体ない。手っ取り早いのは、広報かまいしなのだと思ひます。そうすれば、たくさんの方が来ると思ひます。

(館長) ありがとうございます。内部でも協議していきたいと思ひます。

(委員) 幅広くきめ細やかな事業を行つて、利用者が増えているのは確かにそのとおりだと感心しました。先ほど、まちづくり課長から「本のまちプロジェクト」を7月から行つていくという話がありました。そこで、図書館が連携して取り組んでいく活動として何か考えているのでしょうか。「本のまち」というくらいだから図書館が中心となつて何かやつていくということなのだと思ひますが、先ほどの事業計画には「本のまちプロジェクト」に係る話は見えてきませんでした。そのあたりはどうなのでしょう。

(館長) 「本のまちプロジェクト」につきましては、まちづくり課が中心となつて行つてあります。これから始めていくというところでは、具体的な内容はありませませんが、まずは走り出していこうという状況です。先ほど課長が申し上げたとおり、広報かまいしの7月1日号で市民に「本のまちプロジェクト」を

お知らせいたします。図書館を中心に行っていく中として、一つ目といたしましては、図書館で貸出した本を各地区生活応援センターで返却できるようにしましょう、という取り組みを考えています。二つ目といたしましては、各地区生活応援センターにある図書室を充実させていこう、整備していこうということを考えています。図書館から提供してもいい本があれば各地区生活応援センターに回して、栗橋地区や唐丹地区などでも、図書館に来なくても本に向き合える時間を創造しようという取り組みです。「本のまちプロジェクト」でもいろいろなイベントを行う予定ですが、まだ検討中のところもありますので、今後決まり次第、みなさんにお知らせしていく予定です。図書館としてもどのように関わっていくかを検討しているところです。

(委員) 検討中とのことですね。決まっているのであれば明記して分かりやすい方が良いのかなと思いました。

(委員) 「本のまちプロジェクト」は今年だけの話でないのですよね。

(館長) 今年だけでなく継続しながら加速していこうと考えています。釜石市全体で誰でもどこでも読書できる取り組みを進めていくことを考えています。その中で図書館が関わっていければと考えています。

(委員) 何か不思議な感じがしました。「本のまちプロジェクト」なのに図書館が全く関わっていなかったのかなと疑問に思って少し笑ってしまいました。「本のまちプロジェクト」として立ち上げたのに、釜石市が図書館に何も相談がなかったのかなと。4月からスタートして、それから相談していくということですかね。

(館長) 相談されていなかったわけではございません。何を取り組むかについて関係課で集まって会議とかも行っています。ただ、最初から決まったものを出せず、少しずつやっていこうという感じです。

(委員) 「本のまちプロジェクト」については、積極的に釜石市との関係を望みます。

それから、公民館がない集会所とかに本の貸出しはできないのでしょうか。集会所とかには高齢者が集まって、毎週、百歳体操を行っており、14~15人くらい集まります。そういう人たちにも本を読んで欲しいと思っています。また、移動図書館車も来る時間が決まっているので利用できる人は2~3人くらい。そこらへんにも不便を感じてまして人数が落ち込んでいるのかと思います。そういう活動を行っているところに定期的に本の貸出しができないのかなと。あとで図書館で検討して欲しいです。高齢者は暇なんです。体操しておしゃべりして終わりではなく、それ以外に本を読む。検討して頂ければ有難いです。

(館長) 検討したいと思います。

(委員) 図書館の「出張！図書館サービス」がありまして、昨年、鶴住居地区で開催されたときに地域住民の1人として参加させて頂きました。ここにある成果にも書かれているように、普段、図書館に行きたくても行けないご高齢の方々と一緒に楽しませて頂き、図書館を身近に感じました。今後もこれは継

続して、地道に活動してほしいです。

もう一つ、図書館の市民の活用を考えたとき、昨年度からこの暑さで涼しい場所の居場所づくりの確保が必要で、釜石市の方でイオンとか図書館とか公民館とかの施設の開放が大体的に行われましたが、今年度も実施されると思います。このように図書館に求められるニーズや活用も変わってきていると思いますので、そこに上手く便乗して図書館の利用を定着させていくこともあって良いのかなと思います。

(館長) 「出張！図書館サービス」については今年度も実施する計画にあります。非常に好評なので続けていく考えです。この実施にあたり、ボランティアさん達の協力も心強く感じています。暑さ対策についてですが、図書館はエアコンが効いて涼しい場所となっております。夏になると涼みにくる方が結構いますので、そこでアクションを起こして図書館の利用者の増加に繋げていければと考えています。

(委員) 図書館では、フリーWi-Fiの利用は考えていないのでしょうか。

(館長) 現在、図書館でフリーWi-Fiは使用できる環境となっております。チラシも置いてありますので周知を図っていきたいと思います。

(委員) 資料No.4で、令和5年度より令和6年度の方が貸出冊数が多いが、その原因は何でしょうか。何か工夫をされているのでしょうか。

(館長) 資料No.4におきまして、令和6年度の方が貸出冊数が増えております。それに比例して利用人数も増えております。図書館では様々な企画展を開催したり、イベントを行っております。また、昨年度の図書館長の意向として「図書館にまた来たい、楽しんで欲しい」という思いで運営しています。2週間に1回来られていた方が毎週来るなど、その結果、リピーターが増え貸出冊数と利用者数が増えているものと感じています。また、物価高騰もあって図書を借りに来る人や新聞を読みに来る人が増えているのかと感じています。このような裏背景があって、釜石市は人口が減っていますが、図書館の利用者は増えているのかなと分析しております。

【結果】

質疑応答の上、議事(2)は承認された。

(3) 令和7年度釜石市立図書館資料収集方針について

【説明】

事務局から「資料No.6」「資料No.7」を説明し、意見等を求めた。

【質疑・意見等】

※意見なし

【結果】

議事(3)は承認された。

(4) その他

【質疑・意見等】

- (委員) この間、借りたい本があって、スマホで検索したら、その本がありました。この機能は便利だなと思って、予約できると思って予約しようとしたらカードの番号とパスワードを要求されました。パスワードは新規発行の時に一緒に渡されているということでしたが、作成したのは20年前だったので、結局、諦めて直接、図書館に借りに来ました。せっかく良いシステムなので、もし運用的に分かりやすいのであればスマホで予約が良いのかなど。
- (委員) 私も同じ状況に遭遇しました。よって、カウンターに言ってパスワードを再発行して頂きました。そしたらスマホでできるようになりました。そのパスワードの紙は大事にしています。
- (館長) カードを新規発行した際に、英数字が羅列したパスワードが書かれた紙を渡されます。このパスワードを使用すれば、スマホを利用して貸出中の本を予約できます。スマホからはパスワードは再発行できないので、カウンターに言って頂ければすぐに再発行してお渡しすることができます。
- (委員) 有効期限はないのですか。
- (館長) ありません。無くしたらカウンターに言って頂ければ再発行します。その場合、最初とは違うパスワードになります。

7. その他

- (館長) その他ということで、皆さんに1つ情報提供させていただきます。本のご紹介になります。タイトルは『まさきの虎』といいます。小学6年生の子が主人公で東日本大震災から5年後の被災地の様子を描いた児童書です。この制作に本日ご出席の市川委員さんが取材を受けて協力されている本です。虎舞をテーマにした本で、こちらの本が今年度の岩手県の読書感想文コンクールの課題図書にも選ばれております。
- (委員) 出版社は童心社です。絵を描いている先生も有名な方で、この史代さんといいます。文を書いている濱野京子先生もこの本の他に中学校の課題図書も選ばれていて、今回2冊が選ばれております。
- (館長) 今回、この『まさきの虎』が日本教育新聞の記事に掲載されたということです。
- (委員) お話しの設定場所に、釜石市の鶴住居町とは書いていませんが、読んでみれば釜石市であるということが分かりと思います。
- (館長) 図書館にも所蔵されています。是非、皆さん、お読みください。
- (委員) 図書館の方でも読書感想文コンクールなど募集したらどうでしょう。今はやっていないのでしょうか。
- (館長) 昔は図書館でもやっていましたが、今はやっていません。
- (委員) 東日本大震災の時の子ども達の避難状況を絵本にした指田和さんという作家の先生がおりまして、釜石市に関連した絵本を3冊書いて頂いています。作家さんを通して釜石市に興味を持って頂いて、指田先生のお仲間の作家さん達が釜石市の被災地に興味を持って頂いています。そのうちの濱野先生が釜石の虎舞に興味を持って頂いて、今回書いてみたいということにな

りました。

(委員) 釜石市では SNS はやっていないのでしょうか。

(館長) 今のところやっていません。

(委員) 若い方たちは SNS を見ている子が多いので、図書館にこういう本が入ったとか、こういう展示をしていると掲載すれば興味を持つのかと。

(館長) 「高齢者向けの対応」と「若い人向けの対応」の2つを両にらみでメリハリつけて取り組んでいくことが必要だと考えます。

(委員) 人口減の中で、今頑張っているのは中高年です。何をしたら良いのか迷っているのは高齢者なのです。

(館長) 釜石市は子どもが少ないことも課題です。図書館として何ができるかを考えていきたいと思います。

(委員) 釜石アプリとかで、図書館の情報を提供していくこととはどうか。

(委員) イベントのチラシの画像だけでも掲載することができれば少し違うかも。

(委員) 余談ですが、新庁舎ができるのが約1年後くらいだと思います。新しく環境が大きく変わるところに本の推進をどう進め、「本のまちプロジェクト」とどのようにコラボして進めていくかについて、今のうちからみんなで知恵を出し合っていければと思います。

8. 閉会